

令和 4 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

○ 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。

○ 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。 評価ⅣはABCDで記入する。

○ 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 琴 ノ 浦 高 等 学 校

令和4年度 学校評価

【教育の基本方針】（尼崎市教育振興基本計画）

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携（子どもの視点に立った教育）

[各校の重点取組について]

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、生徒一人一人に応じた「学び直し」の支援をあらゆる教育活動の場で行う。
- 2 基本的生活習慣と規範意識の確立をめざし、一人一人が社会の一員として豊かな自己実現が図れるよう積極的な生徒指導を行う。
- 3 多様性を認める社会への移行の中で、自ら課題解決に取り組む能力や態度を育成す

学校評価の観点

	評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校長）
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める</p> <p>(2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる</p> <p>(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る</p> <p>(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p> <p>(5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る</p>	3.1	4.0
取組	成果	課題と改善策
<p>①本年度より新教育課程が始まり、観点別評価の実施に伴いより実践的な評価を各教科で研究した。</p> <p>②基礎学力向上委員会では、授業中にサポーターに参加してもらい、授業内容を満足に理解できていない生徒や、文字を読むことが困難な外国人生徒の補助をもらった。</p> <p>③特別支援シートを検討し、本校で支援が必要な生徒の把握に努めた。また、阪神特別支援学校の巡回相談員による巡回相談や有識者による職員研修を実施した。</p> <p>④食事前の手指の消毒や手洗いの励行を徹底した。感染症拡大防止対策としてパーテーションを設置し、分散給食や食後のマスクの着用の指導を行った。</p> <p>⑤「給食だより」に様々な視点を反映させるため委員持ち回りで作成した。</p> <p>⑥給食アンケートを1月に実施する。</p> <p>⑦給食費が日割り計算されるようになった。</p> <p>⑧総合的な探究の時間について、専門系列に興味を持たせるためにオリエンテーションを行い、各系列の担当教員からそれぞれの系列で行う学習活動の説明等を行う時間を確保した。</p> <p>⑨各HR教室にプロジェクターを配置し、授業やLHRで活用できるようにした。</p>	<p>①各教科で研究し、教科特性に合わせた評価の方法に関して議論を深め、実践することができた。</p> <p>②授業が円滑に実施できるようになった。外国人生徒についても、授業で行うべきことをスムーズに理解して取り組むことが可能となった。またサポーターに琴ノ浦学習会の監督をもらうことで授業外でも勉強できる環境を整えた。</p> <p>③特に1年生の状況を授業見学していただき、得られた助言等を支援・指導に生かした。</p> <p>④食事前の手指の消毒や手洗いの励行、食後のマスク着用は習慣化できた。</p> <p>⑤生徒に広く食に関する話題が提供できた。</p> <p>⑥アンケート結果より食育教育について、3月に尼崎市学校給食課、給食業者、琴ノ浦高校の三者で、意見交換を行った。</p> <p>⑦生徒の喫食率を上げるために多少の効果があった。</p> <p>⑧生徒が専門系列についても興味を示し自身にあった選択が行えた。</p> <p>⑨教師の作成した教材が簡単に映し出して、生徒へわかりやすく指導ができるようになり、授業が改善できた。</p>	<p>①観点別評価の在り方について研修を行い、各教科毎に評価方法など共通事項をもとに評価を行ったが、各教科の特性があるために均一化が難しい。就職・進学向けプログラムの設置時間の確保が難しい。観点別評価は、さらに研究が必要である。また、総合的な探究の時間の配置なども検討が必要である。</p> <p>②スタディサポーターと教科担当について、昨年度よりコミュニケーションを取る時間があつたが、まだ教科担当とのコミュニケーションが不足している傾向にある。教科担当との連携がとれるような体制を再度検討する必要がある。</p> <p>③巡回相談員や有識者による助言は効果的であったので、特に1年生については1学期の早い時期に生徒の状況に応じた支援方法について助言の機会を増やす必要がある。また、対象生徒の状況や改善・成長等について職員間の情報共有を進める必要がある。</p> <p>④感染症拡大防止のための食後のマスクの着用の必要性について、生徒が理解し、協力・実施できるよう今後も働きかけていく必要がある。</p> <p>⑤給食だよりについて生徒の認知度が低い状態が続いている。配布方法や記事の内容の充実を図るだけでなく、配布時に担任にも協力してもらうなど、給食や食への関心を高めるための対策が必要である。</p> <p>⑥コロナ禍で、各自でそう温かい汁物が提供できなくなったなど、生徒が好む献立に制約がある。</p> <p>⑦喫食率を上げるために、生徒の意向を反映できるように、給食業者等と献立や提供方法を協議する。</p> <p>⑧系列間により人数差が顕著になることも考慮し、指導する必要がある。</p> <p>⑨いろいろな教材ソフトを活用するためには、教員の研修が必要である。</p>

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.2	3.0
取組	成果	課題と改善策	
①年間5回の生徒面談週間とともに随時面談を実施した。 ②家庭への情報提供及び情報共有を常に行った。 ③学校カウンセラーによる生徒の面談・職員研修を実施した。 ④人権学習については、全校生徒対象にヤングケアラー問題について実施した。各学年別では、1年：デートDV、2年：発達障害と特性について、3・4年：職場のハラスメントについて実施した。 ⑤いじめ対応については、アンケート実施の際にいじめの定義を確認する等、職員のいじめに関する理解を深めた。 ⑥建設サマーセミナーや自衛隊体験入隊などの単位認定を伴う外部活動が今年度も中止になったが、商業系列・工業系列とも各種資格検定試験については、放課後や休日での補習を実施した。 ⑦「進路ミュージカル」は今年度も中止になったが、「業種別進路説明会」と「面接講習会」など外部団体や講師を招聘する行事は実施できた。 ⑧全校一斉一般常識テストでは、昨年度に続き一部事前予想問題を配布し、就職試験での一般常識テスト対策として基礎学力の向上を図った。日頃からアルバイト体験を進めている。 ⑨カウンセリングマインドの精神に基づいた声掛けの実施。 ⑩休みがちな生徒に対するICTを活用した学習支援と、教材提供の研究。	①授業を大切にす姿勢や、基本的な生活習慣への理解が深まった。 ②成績や欠席状況など生徒の状況を細かに家庭へ連絡することができた。 ③生徒のメンタルサポートに高い効果が上がっている。また、カウンセリングの回数・時間が増えたことにより、継続的な相談や緊急対応が必要な事案にも対応できるようになった。 ④特にヤングケアラーに関する学習により、現状に疑問を覚える生徒からの相談があった。 ⑤訴えのあった生徒には速やかにアプローチして対応したことにより目立った事例が減少した。 ⑥数多くの資格検定合格者を出すなど成果をあげた。 ⑦進路を考えるきっかけづくりになった。ステップアップ等一定の成果を収める取り組みもあった。 ⑧事前問題で学習したことは、学力として少しでも身につけている。アルバイト体験から学ぶものも多く、コミュニケーション能力が向上している生徒もいる。 ⑨小中学校で不登校を経験した生徒が、概ね単位を修得して進級・卒業している。 ⑩ゲーグルクラスルームの活用などを適切に行うことにより、学校への帰属意識を高めることにつながっている。	①②家庭へ連絡しても電話が繋がらず留守番電話に録音しても折り返しの連絡がない家庭もあり、メールの活用等多様な連絡手段も検討する必要がある。 ③カウンセリングは授業時間に行い、授業を出席扱いにしていることで活用は進んでいる。カウンセラーの協力のもと、実施曜日を分散させることで同じ授業ばかり抜けられないよう調整していくことが必要である。また、保護者の相談を増やしていくよう働きかける必要がある。今後も一層の時間確保を望みたい。 ④今後も継続する。全校生徒対象と各学年単位で人権学習を実施する。新型コロナの状況が良好化した際は、外部講師による全体研修も実施を検討する。今年度も行事予定の変更があり、人権学習の予定がくずれて外部講師による研修を見送った。 ⑤定時制高校であり放課後の時間が限られているため、生徒への対応時間について難しい部分がある。アンケートだけに抑えず、声掛けや職員間の情報共有等日常の取り組みを進める必要がある。 ⑥長8機関でなくてもよいので、インターンシップの導入を試みたい。 ⑦コロナ禍の影響により、インターンシップへの参加については、来年度も厳しい状況が予想される。生徒の進路の意識を高めるために、進路HRのテーマを工夫して充実させる必要がある。外部で開催されている就職フェアや学校説明会などに積極的に参加させるように促していく必要がある。 ⑧基礎学力向上の成果はすぐに出ないと思うが、地道に学習のきっかけを与えていく。職業適性検査の結果にあまりこだわることがないように、就職指導をしていく必要がある。アルバイト体験は、コミュニケーション能力向上には成果が大きいので、これからも積極的に進め情報提供をしていく。 ⑨カウンセラーの活用や保護者面談等、他の取組とも関連付けながら登校しやすい雰囲気づくりに取り組む必要がある。 ⑩研修や先進校の見学などを通じて、職員のICT活用スキルの向上に取り組む必要がある。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		2.7	3.0
取組	成果	課題と改善策	
①地域コミュニティ活動の研究および夏休みに近隣の小学生を招待した本校でのサマースクールについては、新型コロナウイルス感染症の影響から、今年度も中止となった。 ②尼崎市こども青少年課と本校の施設を活用した「居場所カフェ」の取り組みについて協議する予定が中止になった。 ③青少年課と連携し、尼崎市20歳のセレモニーの司会を行った。	①②成果なし ③地域に貢献するとともに、生徒自身の自信につながる連携となった。	①ICT機器を活用する等して、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、本校で取り組める地域コミュニティ活動について検討していく。 ②本校の施設の一部を限定的に開放しつつ、生徒・地域・学校が連携した取り組みについて、施設の整備や運用方法及び運用開始時期等を具体的に協議していく。 ③生徒会だけでなく、多くの生徒への呼びかけていく。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.0	3.0
取組	成果	課題と改善策	
①立ち番表を作成し職員全体で登下校の見守りや声掛けを行った。 ②自転車通学については、申請認可の制度としており、許可された生徒に対して鑑札シールを発行している。また、例年外部講師による自転車安全講演会を実施し、今年度はスクエアドストリート(スタントマンによる自転車事故の実演)を行い、改めて交通安全の重要性を学んだ。 ③学校安全点検は各学期に職員全員で分担して実施し、校内の安全確保に努めている。 ④防災避難訓練として7月に火災避難訓練、1月に地震避難訓練を実施。地震避難訓練では学校が停電する想定で実施した。また消防署員による講話、訓練(簡易担架作成)を行った。	①生徒の登下校の安全確保と状況把握に努めることができた。 ②生徒の交通安全の意識が高まった。 ③校内で生徒や教職員の事故を未然に防いでいる。 ④生徒の防災に対する意識が高まった。	①安全確保と状況把握に効果が上がっており、生徒情報の共有を進めるとともに、立ち番の効率化や巡回場所の選定等についても検討していく。 ②自転車も含めた交通安全指導については、LHR等の機会を通じて啓発していく。 ③日頃から、教職員が校内の安全確保について意識しなければならない。 ④今年度は学校が停電する想定で実施したが、次年度はまた違う想定を検討していく。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
校訓「自律・創造・協力」の精神のもと、地域に根差した学校づくり、地域社会に貢献できる生徒の育成をめざすとともに、生徒一人一人が夢(目標)を持ち、夢(目標)を実現する力をつける教育を行う。 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.0	3.0
適性	成果	課題と改善策	
①社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」の実現に向けて、普段から積極的な声かけ、面談週間の設置や家庭訪問等を実施するとともに、生徒情報の共有に努めた。 ②夏休みのステップアップでは、自己実現に向かって努力できるように、就職組では面接練習を中心に、SPI適性問題対策などに取り組んだ。進学組では、志望する学校へ合格できるように学習面をサポートした。また進路ニュースなど発行して、全校生徒に情報を発信し進路を考える機会をつくった。	①生徒達の表情やアンケート結果より、取り組みとして効果が上がっている。 ②卒業後は自立できることを目指している。少しでも自分の進路について考えるきっかけになった。	①取組として効果的は上がっているの、生徒情報を共有する場の定例化や保護者との連携等、効率的な運用と情報の共有に一層努める。 ②2年前までは、「生活コストを考える」など、外部講師に依頼し効果があったが講師料金が必要であった。費用のかからない進路講座を実施し、就職や進学に関する最新の情報を提供し、生徒の進路選択の幅を広げていく。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大対策を徹底しつつ、教育効果を減少させない学校運営のあり方		3.2	3.0
取組	成果	課題と改善策	
①給食は、2年前に製作したパーティションを教職員全員でリニューアルした。また、今年度も1・2年生と3・4年生の喫食時間をずらして給食を行えるように校時を変更した。食事の会話は慎むように指導した。 ②学校行事のうち、体育祭・文化祭については、参加者数や実施時間を縮小するとともに、分散開催や時差開催など実施内容を工夫して実施した。また、校外学習については、安全面に配慮しながら例年通り実施した。修学旅行は、沖縄へ2泊3日で実施することができた。	①パーティションにより、衛生面を維持しながら喫食できている。また、学年による時差実施により、ソーシャルディスタンスの保持に効果が上がっている。黙食指導の強化を実施して、ある程度の効果があった。 ②体育祭・文化祭を実施することができた。泊を伴う修学旅行等は、沖縄で実施することができ、生徒にとってかけがえのない思い出となった。	①パーティションは設置は、生徒にとって新型コロナウイルス感染症拡大防止の意識を高める効果があったが、生徒たちの黙食が徹底されていない時もあった。来年度もしばらくの間は、このスタイルが続くようなので、生徒への理解を更に促していく必要がある。 ②校内で実施する学校行事については、種目・演目を精選しICTも活用しながら、内容の一層の充実に努める。また、校外学習・修学旅行については、社会状況や関連する通知・通達を踏まえながら、安全面に最大の注意を払いつつ実施できるように取り組んでいく。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	3.0
(1) ICT機器活用した指導方法を工夫するなど教育効果を高める学校運営のあり方 (2) 通級による指導を含む、特別支援の視点による学校運営の改善			
取組	成果	課題と改善策	
①リモート方式で創立10周年記念式典、始業式、終業式、全校集会、人権学習、文化祭の一部を実施した。配信先は、HR教室の黒板の3分の1のスペースに、ホワイトシートを貼り、各教室で視聴できるように整備した。 ②通級3年目の今年度は、希望者1名を対象に始めた。学期に各学期に保護者・生徒面談を実施した。 ③「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を本人・保護者同意のもとで作成し、同意内容に従ってプログラムを実施した。	①新型コロナウイルス感染拡大の心配をすることなく学校行事を遂行できた。動画などを配信することができ、充実した内容の行事もできた。 ②③生徒は担当教員との信頼関係も良好で、特にトラブルは起こっていない。学校活動、部活動などの学校生活においても自信につながっている様子が見受けられる。	①今の技術では、動画配信すると、画面が常にコマ送りになって、画面が少し乱れる。改善できればありがたい。 ②充実した内容のものを配信しても、各HR教室での生徒の視聴態度が気がかりである。担任の指導にお願いするしかない。 ③通級3年目は、募集をかけたが希望者はなかなか出てこなかった。その結果1年生1名でスタートした。受講生徒が増えていくよう、呼びかけにも工夫が必要である。 昨年度の実施内容を検証するとともに、大人数が受講を希望した場合の選考方法や通級終了後の指導方法についても他校の例をもとに検討する方法がある。	